

23

被調查者 第二十師團參謀

陸軍中佐 杉本和郎

第三十師團

一、部隊名

二、部隊履歴、概要

昭和十五年八月

滿洲ニ於テ編成

昭和十九年七月

南方方面出動下令

七八八月、間主力ヲ以テ宮古島一部(36i)ヲ以テ

大東島ノ守備ニ任ス

昭和二十年十月ヨリ復員ノ爲輸送開始

三、部隊長名

陸軍中將

敏見敏郎

昭和二十年十一月十三日病歿

二、指揮隸屬關係及其変遷、概要

在滿間

關東軍
第五方面軍

昭十九年二月 第三方面軍

0835

南方轉移後

昭和十九年八月

第三十二軍

昭和三十年六月

第十方面軍

三 參加セル主要ナル作戦、概要

1. 台湾沖海空戦 主トシテ空戦ニ飛行場勤務ヲ以テ協同
ス、沖縄作戦

作戦間連日激烈ナル敵機空爆並ニ戰斗艦二隻ヲ主ト
スル艦隊(一回)ノ攻撃ニ對抗シツ、宮古島及台湾方面ヨ
リ出動スル航空部隊ニ決死的寒拂ニ協同ス

2. 死傷 詳ケナラサルモ數百ニ達スル咎

4. 損耗 昭和三十一年一月三於テ宮古島部隊ノミニテ師團長
納見中將以下二千名ヲ越エ

5. 給養 南西諸島准駐以來物資、補給十分ナラヌミテ
煩ル粗悪ナリシモ自活ノ促進ニヨリ終戦前後ヨ

0836

リ頻シテ好轉シ復員ニ際シ相當量ノ糧秣ヲ
米軍ニ手交スルニ至ルベシ

6. 衛生 大東島ヲ除キ「マラリヤ」猖獗地帶ニ作戰準備ヲ

遂行セラバ以テ多數ノ「マラリヤ」患者ヲ發生セリ
其他「デング」熱傳染病等、流行地ナリシラバ以テ

一般、衛生成績ハ頗ル不良ナリ

特ニ配屬独立混成第四旅團ハ石垣島ニ於テ兵力（約七〇〇〇）ノ殆ンド全部ヲ「マラリヤ」ニ罹患セ

シメタリ

（本項ハ更ニ調査ノ上革復員省ニ報告ス）

0838

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

一、終戦引歸還迄ノ行動、概要

1、終戦後復員ノ爲ニ長日時ヲ要スルモノト判斷シ直チ自活力ノ向上ニ努力スルト共ニ將校以下ニ對シ歸還後遭遇スヘキ有ニル事象ヲ想定スル精神教育及生活等簡單ナル職業教育等ヲ實施シツ、軍紀ノ繁肅ト團結ノ強化ヲ併進ス

ス九月三日納見中將ハ沖縄本島以南、南西諸島及大東島諸島ノ停戦協定ニ關スル陸海軍ノ最高指揮官トシテ沖縄等於テ米第十軍司令官スチウエル大將ト會見其ノ提示セル協定書ニ調印ス

3、九月下旬ヨリ十月上旬ニ於テ担任地區ノ米軍ノ兵器接收ヲ完了ス

4、十月下旬ヨリ遂次復員輸送ヲ開始ス

0840

一其他部隊ノ經歷中特異ト認メラル事項

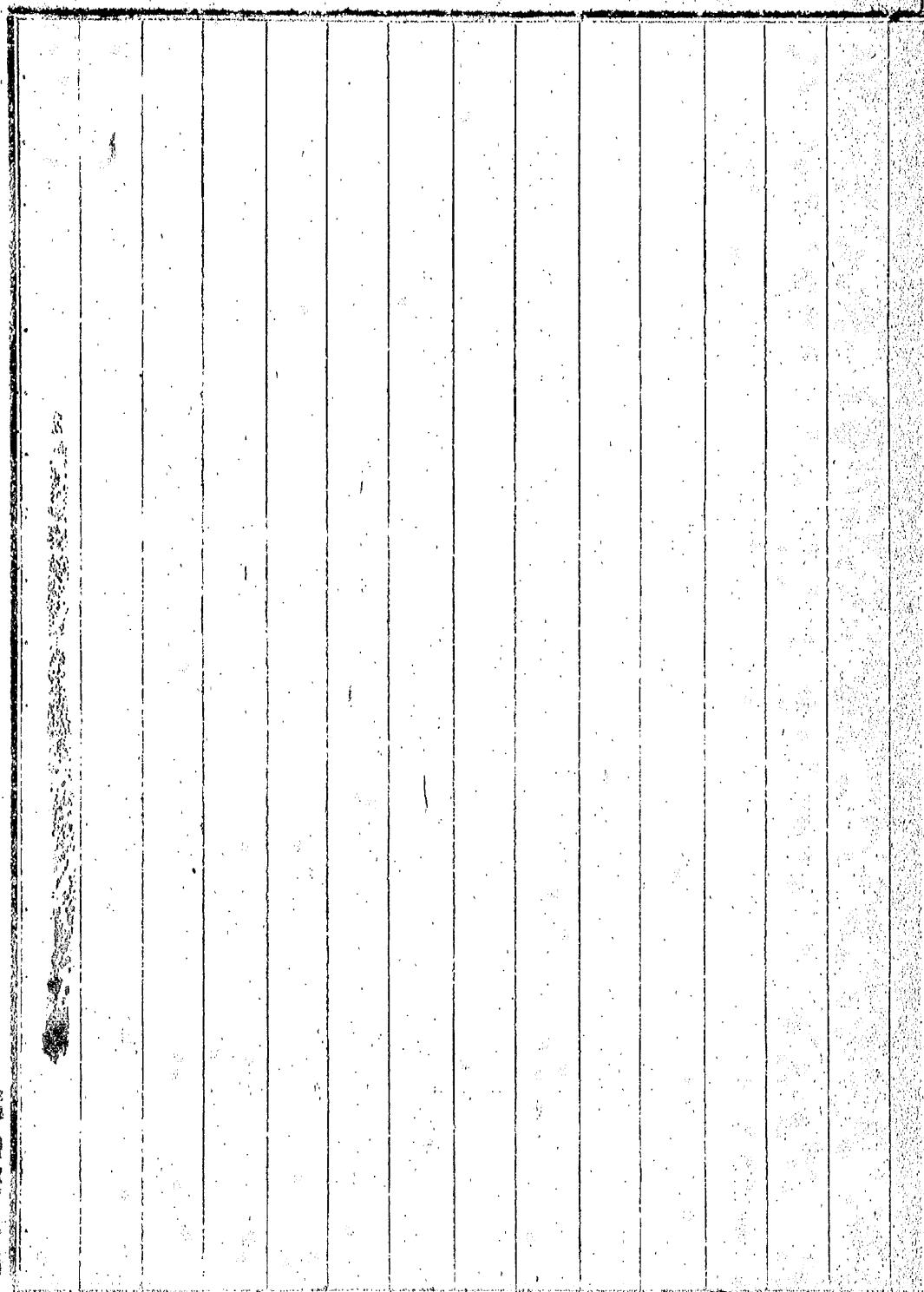
ノ、沖縄ニ於ケル米軍根據地司令官ハ十二月十五日宮古島ニ於ケル日本軍（引率下士官外全員矣）八〇〇名ヲ沖縄本島ニ移駐セシメルコトヲ要求シ米軍軍医ノ身体検査ヲ受ケシメ十二月下旬ヨリ一月九日迄ニ六四ヒ四名及病院一個（將校三干名下士官兵一〇〇名）ヲ沖縄本島ニ移動セシメリ

要求ニ滿タサル分ハ既ニ半數ノ復員ヲ終アセル後ナルヲ以テ強テ要求セス

ス、南西諸島方面ノ歸還ニ際シテハ將校ハ總テ米軍ノ許可ヲ

要セリ

十一月十九日歸國不許可將校歩兵第三聯隊長怡士軍大佐以下三百五十名、海軍十五名ヲ師團及師團指揮下部隊ヨリ選抜何處方行先ヲ示サス拉致セリ



0342

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>